

旧上塚村役場



併ですから、「合併によって失うものがあつては—。それがどんな小さな地域であつても—」という各町村ごとの委員さんの思ひは同じでした。それが、時には「自我」と誤解されるような意見となつて、表現されることもありました。

ある促進委員さんが、「既に合併したつもりになり、すべてが我が町村の地域と考えて、住民の声に耳を傾けよう」と言っておられたのが耳に残っています。合併促進と地元住民の間に立つ委員さんの苦衷は大変でした。

新しく合併した町は、地域内の銀行、駅などの名称が横芝となつているところから横芝町と呼び、役場は3地区のおよそ中央である旧横芝町役場を本庁、そして旧大総村役場、旧上塚村役場を出張所と定めました。本

庁には、総務・税務・産業の3課を設置し、昭和30年2月、ここに新しい横芝町が誕生したのです。

辞令交付の時、「この辞令を私にいただいてよろしいのでしようか。果たして勤まるかどうかわかりませんが、一応お預かりします」とあいさつをしながら、辞令を受けた課長さんがありません。

## 天然ガス／古墳の発掘

町村合併のあつたその翌年、人工地震の地殻調査に利用されていた、栗山・北清水の旧飛行場跡を中心に、天然ガスなどの地下資源試掘調査が始まりました。「ボーリング中、温泉が噴き出した」「横芝では天然ガスが無償で供給される」—そんな噂も流れました。

あとで「数百メートル掘り下げると、地下水も相当高い温度を持つている。ボーリング調査は、茂原の東洋高压の、企業進出の準備である」などのことがわかり、「横芝温泉」の話もすべて夢にすぎなかつた、というエピソードもありました。

そうした開発事業が進んでいるころ、くしくも中台と姥山の両地域では、考古学の遺跡調査が行われていました。

した。その人は、役場の職員として、終始町村合併事務に従事しておられた人で、合併町村の運営の難しさを考え合わせの、偽らない心情からだったと思います。辞令交付に「一応お預かり」という特異なあいさつだったのですが、並み居る人々はだれ一人笑う者はなく、むしろ一抹の厳肅ささえ漂つたのです。



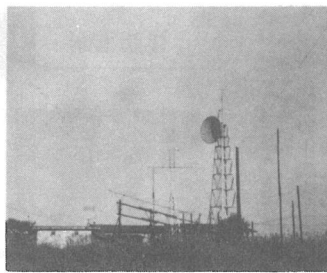
中台古墳から出土した埴輪群

昭和31年2月から7月にかけて、早稲田大学考古学研究室の滝口教授が、同大学の学生を指導し、県教育委員会の協力を得て、中台古墳（殿塚・姫塚）の発掘調査を行いました。その規模と、埋葬されていた埴輪の「唄う女」「ひざまずく男」、そして隊列を組んだ「埴輪群」など、まれに

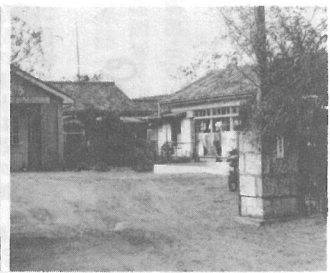
見えたものとして、広く学界に報告されました。今その出土埴輪などは、芝山町観音教寺境内の埴輪館に展示され、古墳は「芝山古墳群の殿塚・姫塚」として、芝山町教育委員会が管理しています。

これは、古墳の土地所有者が芝山町の人であつたことと、当時の観音教寺の住職さんが考古学に造詣深く、受け入れ体制も整っていたためと思われま

しかし、県史名勝天然物調査書及び山武郡郷土史などには、「大総村中台古墳」と明記されているという事です。(つづく)



NHK海外電波受信所(栗山)



上町に建った老人ホーム

- |   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| <p>37年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政相談所開設</li> <li>横芝小仮設プール開き</li> <li>町当塵芥処理場建設</li> <li>好景気で求人難、県庁落成、三河島事故</li> </ul> | <p>36年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民年金業務開始</li> <li>石坂善新堂創業開始</li> <li>東洋コンチネンタルカーボン工場完成</li> <li>岩戸景気、レジャーブーム、柏嶋時代の到来</li> </ul> | <p>35年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優良町村として全国表彰</li> <li>横芝町商工会設立</li> <li>統合中学校校舎完成</li> <li>安保闘争、高度成長、チリ地震三陸海岸津波被害</li> </ul> | <p>34年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>役場新庁舎竣工</li> <li>町章制定</li> <li>有線放送業務開始</li> <li>メートル法実施、皇太子殿下ご成婚、伊勢湾台風</li> </ul> |
|---|---|---|--|

上記の回想文と年次表の進行が、必ずしも一致しません。ご了承ください。